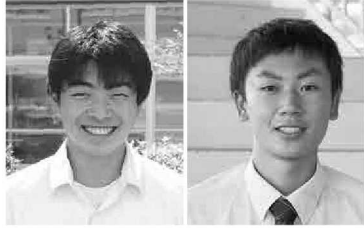


第74回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
近畿地区予選会 男子4×100mリレー 出場

たかおか そうた
高岡 颯太 君 (宮津高校3年・橋立中)

しもの しおん
下野 心音 君 (宮津天橋高校加悦谷学舎2年・加悦中)



左/高岡君、右/下野君

「リレーで近畿大会出場」を目標に3年間走り続けてきた高岡君。最初で最後となった近畿大会は、「個人・チームとしてベストに近い走りができ、レベル

の高い選手たちと勝負できた。これまでチームでつないできたバトンで、目標としていた近畿大会出場を達成できた仲間と一緒に走れて楽しかったです」と話してくれました。

「リレーメンバーは僕以外は3年生。3年生の力で近畿大会に出場することができて感謝しています」と下野君。チームベストを出すことはできませんでしたが、「大舞台上でバトンミスなく、自分たちの納得のいく走りができました」と大会を振り返ります。今後の目標を、「もっと走力を上げて、自分たちの代でもリレーで近畿・全国大会に出場できるようにがんばります!」と話してくれました。

第45回全国高等学校総合文化祭の国わかやま総文2021
美術・工芸部門 出展

わだ ゆめか
和田 夢花 さん (宮津高校3年・江陽中)

やまざき さら
山崎 さら さん (宮津高校3年・加悦中)



左/和田さん、右/山崎さん

「自分の内面に自信を持ちたいと思っている人に見て欲しい」という思いを作品に込めたと和田さん。コロナ禍で部活動の時間が制限される中、「十分なクオリティまで上げられな

かったが、絵の具や銀箔、ラメなどで華やかさが表現できました」と話してくれました。

1番好きな花「スイートピー」と高校生活の経験の層を表現した「鏝」をテーマに描いた山崎さんは、「苦手だった油絵の具を使いました」と、高校生活最後の作品で苦手克服に挑戦。「絵の中に箔を使ったり写真を貼って表現の幅を広げる工夫をしました」と話してくれました。

2人とも入賞とはなりませんでしたが、顧問の西田鳩子教諭は「コロナ禍で部活時間が制限される中、ひたむきに取り組んだ生徒の作品が全国の舞台上で展示されたことを大変うれしく思います」と笑顔で話してくれました。

第74回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
近畿地区予選会 男子8種競技 8位入賞

なかにし りく
中西 陸 君 (加悦谷高校3年・橋立中)



高校1年から目標にしていた全国大会出場を目指して挑んだ近畿地区予選会。大会の雰囲気飲み込まれそうになりましたが、「3年間やってきたことを自信に楽しむことができましたが、正直悔しいです」と中西君。今後の目標は、「大学進学後も競技を続けて、全国大会出場・入賞を目指します」と話してくれました。

第45回全国高等学校総合文化祭の国わかやま総文2021
書道部門 出展

まつせ かほ
松瀬 夏帆 さん (宮津天橋高校加悦谷学舎2年・橋立中)



京都府代表に選ばれたときは、「とてもうれしかった」と松瀬さん。思わず立ち止まってじっくり見たいくなる作品になるようにと思いつめて書き上げたといいます。入賞とはなりませんでしたが、「出展できるのは全国で300人。その中でも次は入賞できるよう、日々努力を積み重ねていきたいです」と話してくれました。

令和3年度全国高等学校総合体育大会
ボート競技大会 出場

おおた ここな
太田 心菜 さん (宮津天橋高校宮津学舎2年・橋立中)

たけはら ももか
竹原 李花 さん (宮津天橋高校宮津学舎2年・橋立中)

にしむら まどか
西村まどか さん (宮津天橋高校宮津学舎2年・加悦中)



左/太田さん、中/竹原さん、右/西村さん

近畿大会で見事優勝を果たし、全国制覇を目標に掲げて挑んだ全国大会。前半から1番を取る自分たちらしいレースができず、「自分たちの力を最大限に出し切れなかった」「思うような動きができず、弱さが出たレースだった」と悔しいレースだったと竹原さんと太田さん。自分たちと全国の強豪との違いは、「レース前からの行動に落ち着きと余裕があること」と西村さんは大会を振り返ります。悔しい結果の中でも、全国の強豪から学ぶことが多く、さらに練習を重ね次の全国大会では自分たちらしいレースをしたいと、早くも次を見据え、今後の目標は3人そろって「全国制覇!」と話してくれました。

ぼくたち
わたしたちの

熱い夏。

この夏、近畿や全国を舞台上に活躍した21人の生徒を紹介します。

今年から女子がインターハイ種目となり「初代団体優勝校」を目指して挑んだ令和3年度全国高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技大会。大会までの道のりは険しく、コロナ禍で出場を予定していた大会の中止や、練習にさまざまな制限が加わるなど我慢の日々が続きました。顧問の柏木教諭は、「2時間とい

う限られた時間でどれだけ集中してトレーニング量を確保するか。また、選手とコミュニケーションを取り、モチベーションの維持や目標を見失わないように練習を重ねてきた」と話します。迎えた当日は、初めて全国大会を経験する選手が多い中、「堂々と試技する選手の姿に感動しました」と大会を振り返ってくれました。



左/下村さん、右/長島さん

全国制覇。 宮津天橋高校 ウエイトリフティング部

【全国優勝】

ながしま わかな
長島 和奏 さん (加悦谷学舎1年・江陽中) 女子76kg級

「開催してくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです」と長島さん。自身の記録と日本高校新記録を成功させること、個人と団体優勝を目標に挑んだ全国大会。見事、個人と団体は優勝を果たしましたが、「日

【全国優勝】

しもむら あいり
下村 愛里 さん (加悦谷学舎1年・加悦中) 女子59kg級

兄の影響を受け競技を始めた下村さんは、当時の日本中学生記録を樹立するほどの実力者。コロナ禍の厳しい時期を乗り越え、個人・団体優勝を目標に挑んだ全国大会は、「何より団体優勝がうれしかった。個人では優勝したが自己ベストに及ばず、成果と課題が良く見えた試合でした」と大会を振り返ります。今後の目標は、「国際大会でメダルを取れる選手になり、将来はオリンピックに出場すること」と話してくれました。

令和3年度全国高等学校総合体育大会
ウエイトリフティング競技大会 男子96kg級出場

こにし ともや
小西 智哉 君 (加悦谷高校3年・加悦中)



全国優勝クラスがひしめく京都府予選を突破し、初めて手にした全国大会への切符。「試合を楽しむことを忘れず、自分らしい試技を意識しました」と小西くん。残念ながら入賞とはなりませんでしたが、「全国の舞台を目指して2年半努力をしてきた。今後の人生において大きな自信になりました」と話してくれました。

CLOSE UP 加悦谷高校・宮津天橋高校
ウエイトリフティング部

全国でも屈指のウエイトリフティング部を有する加悦谷高校・宮津天橋高校。これまでから何人も全国優勝者を育成し、中にはオリンピック出場を果たした選手もいるほど。強さの秘訣はどこにあるのか？ 顧問の柏木教諭は、「本校の職員だけでなく、外部指導者や保護者、京都府ウエイトリフティング協会のご理解とご協力があり選手の育成ができています」と話します。今年は1年生から2人の全国優勝者が誕生。今後のさらなる活躍にご注目ください!